
基本目的Ⅳ

子育て

GO TO
THE STRATEGIC PLAN CITY OF TATEBAYASHI
2020



施策目的 1 1

子育てを社会全体で支えあい、 元気な子どもが育つまちになる

次代を担う子どもたちが、
地域社会の見守りのなかで明るく元気に
育まれるまちをめざします






現状と分析

- 核家族化の進行や地域の連帯意識の低下、保護者の働き方の多様化、少子化により子育て環境は大きく変わり、身近なところに育児の相談相手がない状況、子どもと接する時間の減少、子どもたちが互いに交流したり集団行動する機会の減少により、子どもにとって安全で安心な居場所や交流の場の確保が困難な状況を引き起こしています。また、母子の健康を脅かす感染症や妊娠、出産から子育てまでの育児不安が増大しています。これらの育児不安を解消するために、ニーズに対応した子育て支援体制を整えるほか、母親と子の健康を守る母子保健事業のいっそうの推進が必要です。
- 子どもに対する周囲の無関心は、地域における子どもの安全安心を阻害するだけでなく、子どもの問題行動を生みやすい状況をつくり出しています。
- 子どもが地域のなかで健やかに成長できるよう、関係する各種団体、機関、事業者などの連携をいっそう強化し、「地域の子ども」として見守る体制づくりが必要なほか、学校では経験できないような「学び」や「遊び」などの機会を充実することが求められています。

施策の方向

- 子どもの人権や利益を最大限に尊重しつつ、子育て世代の多様なニーズに対応できるよう、きめ細かな子育て支援体制を整えます。
- 母親と子の健康を守るため、予防を柱とした母子保健の充実を図るとともに、妊娠、出産から子育てまでの切れ目のない支援体制を整えます。
- 保育園や児童館などの保育環境の充実を図ります。
- 安全安心な子どもの居場所や交流の場づくりを進めるとともに、さまざまな社会体験、自然体験などの機会を提供し、心豊かでたくましい子どもの成長を支援します。
- 子どもを地域で見守り育てる体制を充実するとともに、非行防止対策を推進します。

指標

指標	指標の内容	基準値	今後の目標
乳幼児健康診査受診率	乳幼児の健康診査の受診率 (受診者数÷対象者)	4か月児：97.3% 10か月児：96.3% 1歳6か月児：97.2% 2歳児 歯科：96.5% 3歳児：96.1% (平成26年度)	
予防接種の接種率	予防接種の接種率 (麻疹風疹第1期・第2期)	第1期 98.6% 第2期 93.8% (平成26年度)	
妊婦健康診査受診率	妊娠を届け出た時に妊婦一人につき14枚発行した受診票に対し、実際に利用(妊娠届出の時期等により利用可能枚数に差がある)した受診票の割合	79.2% (平成26年度)	
子育て中の親を応援する活動を行っている市民の割合	市民活動調査 「子育ての不安や悩みを持つ親を助けて、子どもが元気に育つよう、子育てを応援する活動を行っている」	17.1% (平成25年度)	
子どもの心身の健全な成長を応援する活動を行っている市民の割合	市民活動調査 「地域の子どもたちが、体力、学力、人間性などバランスよく健全に成長するよう、応援する活動」	17.6% (平成25年度)	



施策目的 1 2

心身ともに健康で確かな学力を身につけた子どもが育つまちになる

子どもたちが豊かな心とたくましさを身につけ、これからの社会を担うための人間として成長できるまちをめざします

子育て

現状と分析

- 家庭や地域の教育力が以前に比べて低下しており、学校がそれらの教育機能を補完しなければならない状況にあり、子どもの健やかな成長に対する家庭・地域・学校の三者の役割分担について再度確認する必要があります。
- 子どもは、自ら学ぶ意欲を身につけるとともに、変化の激しいこれからの社会を生きるために、必要な資質と能力を養うことが必要です。
- 社会の情報化の進展によって、携帯電話やスマートフォン、インターネットが急速に広がり、生活が便利になった反面、子どもがトラブルや犯罪に巻き込まれやすい環境となっており、情報の選択や活用についての正しい知識を持たせることが必要です。
- いじめや不登校、その他の問題行動など、子どもの健やかな成長を阻害する要因を根絶することが求められており、学校は家庭や地域と情報を共有し、その対策を講じるなど、三者一体となった取り組みが必要です。
- 学校は、子どもが一日の大半を過ごす場所であるため、安全と安心が十分に確保された環境づくりを進めていく必要があります。
- 子どもが将来に夢や希望を持ち、その実現に向かって努力することができるようさまざまなサポートが必要です。




施策の方向

- 子どもの「確かな学力」、「豊かな人間性」、「健康・体力」をバランスよく育むため、一人ひとりの発達段階や能力に応じたきめ細かな幼児教育、小学校教育、中学校教育、特別支援教育の充実を図ります。
- 地域の教育力を生かした効果的な授業実践を促進します。また、学校評価結果をさまざまな教育活動に反映し、学校運営に生かします。
- 子どもを取り巻くさまざまな問題の解決に向けて、家庭・地域・学校は相互に連携を強め、三者一体となった取り組みを進めます。
- 幼児の教育施設、保育施設、小学校や中学校における子どもたちのさまざまな活動が、より安全で安心なものとなるよう、学習環境の充実を図ります。

- 各教科などの特性を生かしたり、家庭や地域との連携を図ったりするなど、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育を推進します。
- 子どもが夢を育み、それを実現するために必要な学びの機会を得るための支援をします。また、子どもが適切な進路を選択できるようにするとともに、望ましい勤労観や職業観を育てるためのキャリア教育*を充実します。
- 子どもや保護者が「食」の大切さについて学ぶことができるよう、教育活動全体のなかで食育を進めます。

* キャリア教育：一人ひとりの社会的自立や職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育のこと。

指標

指標	指標の内容	基準値	今後の目標
標準学力テストで全国平均を上回る小学校数	全国で実施される標準学力テストにおいて、得点が全国平均を上回る小学校数 教科：国語・算数2教科 対象：6年生	8校 (平成26年度)	
標準学力テストで全国平均を上回る中学校数	全国で実施される標準学力テストにおいて、得点が全国平均を上回る中学校数 教科：国語・社会・数学・理科・英語の5教科 対象：2年生	4校 (平成26年度)	
新体力テストで全国平均を上回る小学校数	全国で実施される新体力テストにおいて、得点が全国平均を上回る小学校数 対象：5年生	5校 (平成26年度)	
新体力テストで全国平均を上回る中学校数	全国で実施される新体力テストにおいて、得点が全国平均を上回る中学校数 対象：2年生	1校 (平成26年度)	